◀圃場では生育状況等を確認した

白神トピックス

『白神ねぎ』の収穫を前に研修会を開催

ねぎ部会

ねぎ部会（山谷初男部会長）による夏ねぎ現地巡回講習会が６月25日、能代西高校で開かれ、生産者やＪＡ・種苗関係者、西高校生徒など約40名が参加しました。

はじめに山谷部会長が「今年は例年に比べ降水量が非常に少なく、軟弱徒長が見られる圃場もある。今後の生育管理や病害虫防除を徹底し出荷に備えてほしい。」と挨拶しました。その後、地域振興局職員からは生育状況や管理方法について説明が行われ「害虫では、タマネギバエの被害が多く、病害では、小菌核病、べと病などの発生がみられている。さらに干ばつによる葉先枯れが発生している圃場では黒班病、葉枯病が発生しやすい状況であるので予防的な防除をしてもらいたい。」と害虫と病害の同時防除を呼びかけました。その後、生産者の圃場を巡回し収穫期を前に生産者と生徒たちが理解を深めました。

▲収穫を前に管理方法について学ぶ生産者

トマトの増収技術開発に取り組む

園芸部会

園芸部会（畑山悦雄部会長）では、秋田県立大学と共同でトマトの「低段・多段試験栽培」の研究を行っています。この研究では、慣行の８段の多段栽培から４段と８段に組み合わせることでトマトの増収技術を開発し、10ａ当たり約1.5倍の増収ができる栽培体系を目指します。

県立大の吉田教授は「米から園芸作物への転換が進み、トマトもそのような野菜の１つであるが、東北の中では産地としての規模は小さい。低段・多段の栽培により増収は見込めるが果実の小玉傾向などの課題があるが、１つ１つ解決していきたい。この研究で、能代から秋田の農業を変えていきたい」と意気込みを話してくれました。

▲トマトの安定多収栽培を目指す

▲心地よく利用してもらうために頑張りました

青年部員による地域貢献活動

青年部

青年部（池端竜部長）は６月10日に、ＪＡ秋田やまもとの青年部員と合同で、能代厚生医療センターの敷地内の草刈りを行いました。当日は晴天の下、青年部員たちが作業に取り組みました。

この取り組みは、病院の環境美化を図ることを目的に地域貢献活動の一環として行われ、青年部長の池端竜さんは「全員で協力して作業し、きれいにするのはもちろんですが、ＪＡ秋田やまもとの青年部員との交流も深めたいです」と話してくれました。両ＪＡの青年部員の活動によって雑草はきれいに刈り取られ、訪れた人々が気持よく病院を利用することに役立っています。